



出版クラブ会報 No.625

能登半島視察と

〈日本出版クラブ震災対策室〉の発足



震災対策室運営委員長

相賀 昌宏

(おさが・まさひろ)

日本出版クラブでは、今年1月1日(月)に発生した「令和6年能登半島地震」に出版界はどのような支援ができるかを考えるため、7月19日(金)と20日(土)の両日、能登半島の被災地区のうち輪島市と珠洲市の2カ所を視察しました。

の砂塚隆広社長に、心から感謝を申し上げます。

能登半島視察

まず、今回の視察にあたって、能登の被災地で準備をしてくださった鎌倉幸子さん(東日本大震災被災地の移動図書館事業や図書館支援に携わっている方)の献身的な努力、そして訪問した各地で説明をしてくださった方々、またその方々へ事前に依頼をしてくださった北國新聞社

7月19日(金)午前11時に金沢駅の東口に集合ということになり、私は東京駅8時11分発のかがやき505号に乗り、10時46分に金沢駅で降りました。約2時間半ですが、次の日の金沢市から珠洲市までの車の移動時間の方がより長いということに、その時はまだ気がつきませんでした。

金沢駅に集合した参加者15名が2台に分乗して輪島に向かい

ました。助手席に座った鎌倉幸子さんと運転手さんの会話が糸口となり、地震発生後の交通事情がいかに大変だったかに始まり、運転手さんから様々な思いが車中に溢れ出しました。対面交通が数日前に復活した「のと里山海道」は、修復工事もかなり進んではいるものの、ところどころにある亀裂や段差の修復場所が跳ねて、慣れないと順調な運転は難しいようです。途中の休憩を入れて、約1時間半後に輪島に到着しました。

輪島市内に入ると、傾いた家や閉め切った家、完全に倒壊した家などがあって、被災地なの



岩手県山田町から珠洲市に贈られた応援メッセージ

いきました。大下さんは、「服もこれしなくては、こんな格好のまままで皆さんの前に出るのは失礼かと」と恐縮されていました。その言葉を聞いて、あらためて被災地の厳しい状況への理解不足と大変な時に伺った申し訳なさを強く感じました。1月3日から新聞配達は再開したものの、200軒ぐらいの配達先が、現在は100軒ほどになっ

その後に向かった輪島市立図書館は倒壊のおそれから閉館中で、代わりに道の駅「輪島ふらっと訪夢」に10坪ぐらいの仮設図書館ができていました。毎日20人ぐらいの人が借りにくるということ。震災直前に建設計画ができていた新しい図書館の建設候補地は、現在は仮設住宅の場所になっていました。閉館中の図書館から早く本を運び出したいけれど、大量の梱包用ダンボール箱がすぐに購入できなくて困っているという話を伺って、同行のトーハンの田仲幹弘副社長の手配で、後日すぐにトーハンからダンボール箱が寄贈されました。近くの市民ホールなどの建物と道路に段差ができていて、気をつけて歩かないと足を踏み外します。道路、通路の段差は特に夜間の歩行にとってかなり危険な状態です。

主な記事

- ▽能登半島視察と〈日本出版クラブ震災対策室〉の発足 相賀 昌宏さん：一〇三
- ▽出版平和堂 第56回 出版功労者顕彰会 ― 新顔彰者5氏が決まる…三
- ▽出版クラブ維持員動静…三
- ▽第63回全出版人大会 記念講演会「息を止めて海に潜る」 岸 政彦さん：四〇八
- ▽日本出版クラブ理事会 評議員会開催 新たな役員の名簿が決まる…九
- ▽〈出版歳時記〉読書とカラオケ…十

2日目は午前7時40分出発で珠洲市への視察に向かいました。道路の状態は片側車線がずり落ちたところや、極端に蛇行するところもあり、振動のない運転が続くと思うと途端に上下動で身体が揺れる移動でした。途中の休憩を入れて2時間半強で珠洲市内に着きました。倒壊した家屋、ビルが倒れている光景から、復旧には相当の時間が掛かるだろうという印象を受けました。北國新聞社珠洲支局に寄って、そこから支局長・記者の安田哲朗さんが同乗し、市内の案内をしていただきました。埋め立て地の津波被害は大きく、また瓦屋根の家の倒壊もいたるところで見ました。

珠洲市庁舎を訪ねましたが、トイレは、外にトイレカーが置かれていただけです。庁舎の1階は、各地からの応援メッセーじや「被災者支援総合窓口」と書かれた紙が貼ってある衝立などで、雑然とした室内でした。そのメッセーじの中に、三陸沿岸の被災地で会った岩手県山田町の、現在は小さなお店を出している「大手書店」のメッセーじを見つけたときは、被災地の人たちの心の繋がりを目の当たりにした思いでした。

泉谷満寿裕(いずみや・ますひろ)市長、吉木充弘(よしき・みつひろ)教育長が忙しい中を時間を割いてくださり、詳細な

発災直後の様子や対応、問題などについて説明してくださいました。なんといっても生活環境の復旧が最優先だったそうで、上下水道は地面の沈下や断層にもかかわらず思いのほか元の形で残っていたものの、上下水道では倒壊した家の元栓が探せず、その先の方に水が流れなかったとか、津波による砂が下水道に入って固まってしまった箇所もあったそうです。これまでは大



輪島市立図書館職員(中央)を囲んで(どがぐち・まな)さん

きな地震がなかったこともあって、かつて国から耐震補強の助成金が出た時に耐震補強をしなかった家も多く、今回の地震でそのほとんどが倒壊して、補強をして倒れなかった家と混在したことも問題を難しくしているようです。被災地に建設重機を運びにくいように、建築業者も滞在できる時間が限られているという悪い条件の中、避難所や仮設住宅、工事関係者やボラ

ンティアの方々(宿泊施設を造るのも苦勞しながら徐々に進まざるを得なかったことなど、語り尽くせない話を説明していただきました。さらに発災直後は富山県の高岡市から珠洲市まで片道1時間かかるという道路の状態だったことも復旧が進まなかった大きな原因だという説明を受け、あらためて被災地で救助、復旧、汚物処理などに従事している人たちの姿をもっと報道する必要があるということを考えてきました。市庁舎から出て海岸沿い建物の津波被害の中を車で移動しながら、被災した「いろは書店」に向かいました。

「いろは書店」のある飯田町商店街はほとんどの店が被害を受けていて閉められている店ばかりでした。当日は地域の祭事の日でしたが、道路が陥没していたりして練り歩けないので小さな区画ごとにお祭りが行われていました。飯店舗の「いろは書店」の前にも、飾りつけのために子どもたちや青年たちが集まっています。元のお店は倒壊している状態ですが、その斜め向かい側のガレージを借りることができて、そこに「いろは書店」が立ち上がっていました。店主の八木久さんご夫妻もお元気でしたが、息子さんが店を継いで、書棚などの造作をすべて手作りされた店内でした。地域

の方々(気楽に集まる場所としても考えられている「本屋」の姿に、心からの応援の気持ちが湧き上がりました。お茶をいただいているときにご主人の八木さんが、図書館との連携がとても大事だ、と強くおっしゃっていました。言葉が心に残っています。金沢駅から新幹線に乗る15時57分までには戻るとなると、珠洲を午後1時前には出発しなければなりません。北國新聞社の支



いろは書店・八木久さんから説明を受ける視察団一行

前のことで日々が過ぎていくうちに忘れたり、他人の心配をしても私ごとではないので忘れたい、辛いことはいつのまにか忘れたいなどは、わが身を振り返ればよくあることです。しかし、災害は思わぬかたちで起こり、新たに続き、またそれぞれの被災者は、忘れた後も存在しています。

社(前に車を止めて、車中で昼食のホットドッグを食べました。短い時間しか滞在できないということを実際に体験しながら、また揺れる車で金沢駅に向かいました。

震災対策室の発足と目的

「天災は忘れた頃に来る」とは、人は忘れやすいということも言っているのだと思います。目的

これまで出版界は様々な災害に対応してきましたが、過去の活動と経験の蓄積と、それぞれの災害対処への準備などを考えると、発災のたびに対策チームを立ち上げるよりも、常設の震災対策室があった方が良く、被災を忘れた頃に思い出させるシステムを持つ必要があると思います。今回の能登の視察にあたって出版クラブという名前だけでは現地の方に分かりにくいということもあったので、能登の視察の直前に野間省伸会長に相談し、「日本出版クラブ震災対策室」という名称で活動することを了解してもらい、同時に、この震災対策室を発足させました。

〈日本出版クラブ震災対策室〉は、被災地の読書環境整備の支援を主たる目的としながら、被災地の子どもの夢の実現を支援することも大きな目的としたいと思っています。

また、各被災地とのコミュニケーションが何よりも大事だと

思いますし、その情報共有を通じて、被災地のニーズに即しながら、無理のない範囲で、小さなことを大事にしながら持続的に対策を講じていくつもりです。

実際に被災地を訪ねると、長時間の移動に疲れ、上下水道、トイレの不便を感じ、被災者の苦勞の一部は身に染み込んだ気がします。とは言うものの、いずれば安心な生活環境に戻れる旅行者であるわけで、実際にはほとんど見ていないと言われても仕方ありません。何とかしてくれないかという命にも関わる緊急事態の状況にある人たちの声、何とかしようとしてもど

うしようもない中で自らを犠牲にして対処している人たちの声、あるいは国への不満の声、国への感謝の声、助けてくれてる人たちへの感謝の声、不満はあるけれど少しでも応援を引き出そうとしている感謝と配慮の声など、被災地を訪ねるたびに、ひとつの見方だけでは間違ってしまう難しさを考えさせられます。そのような様々な立場に立った見方、多様な視点を被災地とのコミュニケーションを通じて拾い上げ、多くの人に伝えていくことも震災対策室の役割です。

そして、少しずつ忘れていく

日常の中で、時々でも思い出し、出版界として手を差し伸べられることを考えて、小さな力を集めて大きな力になるように工夫して、適時に無理のない範囲で喜ばれる支援を持続的に行っていきたいと思えます。

また、地域社会で従来からゆっくりと進んでいる少子高齢化、過疎化、人口流出、既存の産業の衰退などが、震災などの影響で急激に進み、その中で読書環境、出版物販売環境、情報摂取環境の弱さも露呈します。一方でその弱さを補うための対処のアイデアや新しい組み合わせ、工夫もあらわれてくるは

ずです。たとえば図書館と書店の連携などは、せざるを得ないところから新たな進展があります。地域にとつての書店の役割という点でも顕著な動きが見られるかもしれません。被災地から学ぶ将来の地域社会の読書環境という視点も、震災対策室のテーマのひとつに挙げたいと思います。

最後に、これまでの皆さまからのご協力、ご支援を感謝しつつ、引き続き温かいお心とお力を賜りますようお願い申し上げます。

(小学館会長、日本出版クラブ 常任理事)

出版平和堂第56回 出版功労者顕彰会

新たな顕彰者5氏が決まる

2024年7月22日(月)、神保町の出版クラブビル4F会議室にて、日本出版クラブの出版平和堂委員会が開催され、次の5氏を出版功労者として新たに顕彰することを決定した。

(歿年順・敬称略)

(版元関係)

安藤 満 (文藝春秋代表取締役)

阿井 國昭 (昭晃堂代表取締役社長)

木滑 良久 (マガジンハウス代

表取締役社長)

(取次関係)

小貫 邦夫 (協和出版販売代表取締役社長)

(書店関係)

長谷川義剛 (長谷川書店代表取締役)

なお、「第56回 出版功労者顕彰会」は11月6日(水)正午より、箱根芦ノ湖畔の出版平和堂で執り行われる予定である。

出版クラブ維持員動静

▼代表者変更(敬称略)

潮出版社 南晋三 前田直彦

宙出版 北脇信夫 大宮敏晴

学校図書 芹澤克明 橋本和夫

▼住所変更

岩崎書店 112-0014 東京都文京区関口2-1-3 目白坂S

Tビル7F

TEL 03(6626)5080

FAX 03(6626)5085

河出書房新社 162-8544 東京都新宿区東五軒町2-13

少年画報社 101-8388 東京都千代田区神田三崎町3-1-12

少年画報ビル

(TEL・FAXは従来通り)

少年画報ビル

(TEL・FAXは従来通り)

滝山 136-0082 東京都江東区新木場1-7-6

(TEL・FAXは従来通り)

東京ニユース通信社 104-6224 東京都中央区晴海1-8-12

晴海アイランドトリトンスクエア オフィスタワーZ 24F

(TEL・FAXは従来通り)

日科技連出版社 151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-7-4

渡貫ビル

TEL 03(6457)7875

FAX 050(3852)3820

ポプラ社 141-8210 東京都品川区西五反田3-15-8 JR

目黒MARCビル12F

TEL 03(5877)8158

FAX 03(5877)8132

出版平和堂

「第56回 出版功労者顕彰会」を
11月6日(水)出版平和堂にて開催します

問い合わせ：一般財団法人日本出版クラブ

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32 出版クラブビル5F

TEL 03(5577)1771 <https://www.shuppan-heiwado.jp/>



日本出版クラブ 理事会・評議員会開催 —新たな役員の顔ぶれが決まる—

一般財団法人日本出版クラブの理事会並びに評議員会が、6月10日と同日25日に開催され、2023年度の事業報告・決算報告・公益目的支出計画実施報告が承認された。

今年度は役員改選も行われ、会長1名、副会長2名、常任理事6名、理事22名、監事5名、顧問6名、評議員38名がそれぞれ選任された。

引き続き各委員会委員の選出もおこなわれ、事業運営委員会と総務委員会に各10名の委員(うち委員長1名、副委員長2名)が選ばれ、出版平和堂委員会には12名の委員(うち委員長1名、副委員長3名)と11名の特別委員が新たに選出された。

(◎印は新任、敬称略)

- 会長 野間 省伸 講 談 社
 副会長 小野寺 優 (河出書房新社)
 ◎宮原 博昭 (学研ホールディングス)
 専務理事 横川 裕史 (日本出版クラブ)
 常任理事 相賀 昌宏 (小学館)
 奥村 景二 (日本出版販売)
 金原 優 (医学書院)

常任理事	近藤 敏貴 (トーハン)	鈴木 一行 (大修館書店)	◎廣野 眞一 (集英社)	◎飯塚 成幸 (文藝春秋)	生駒 大志 (旺文社)	石田 哲哉 (ダイヤモンド社)	伊住公一 (淡交社)	市村 友一 (朝日新聞出版)	今村 正樹 (偕成社)	江草 貞治 (有斐閣)	及川 清 (養賢堂)	大橋 一弘 (博文館新社)	◎岡本 功 (ひかりのくに)	◎岡山 公夫 (光文社)	齋藤 健司 (金の星社)	坂本 政謙 (岩波書店)	佐藤 隆信 (新潮社)	下中 美都 (平凡社)	千葉 均 (ポプラ社)	◎鉄尾 周一 (マガジンハウス)	成瀬 雅人 (原書房)	村上 和夫 (オーム社)	村上 忍 (KADOKAWA)	村川 敬一 (創元社)	渡辺能理夫 (東京書籍)	南條 光章 (共立出版)	牧瀬 充典 (文化産業信用組合)	矢幡 秀治 (日本書局出版)	山本 憲央 (小学館)	波部 正嗣 (日教販)	◎石崎 孟 (マガジンハウス)	上野 徹 (貝出版)	江草 忠敬 (有斐閣)	◎大坪 嘉春 (税務経理協会)	◎堀内 勤 (書苑)	◎堀内 丸恵 (集英社)	安部 順一 (中央公論新社)
------	--------------	---------------	--------------	---------------	-------------	-----------------	------------	----------------	-------------	-------------	------------	---------------	----------------	--------------	--------------	--------------	-------------	-------------	-------------	------------------	-------------	--------------	-----------------	-------------	--------------	--------------	------------------	----------------	-------------	-------------	-----------------	------------	-------------	-----------------	------------	--------------	----------------

評議員	安部 英行 (学事出版)	飯塚 高彦 (産業図書)	池田 和博 (丸善出版)	岩野 裕一 (実業之日本社)	内田 真介 (ベレ出版)	梅澤 俊彦 (日本医事新報社)	◎江口 貴之 (NHK出版)	大熊 隆晴 (開隆堂出版)	◎大坪 克行 (税務経理協会)	大矢栄一郎 (白桃書房)	岡本 光晴 (あかね書房)	◎岡本 泰治 (増進堂受験研究社)	小澤 嘉護 (図書流通センター)	小田 良次 (実教出版)	風間 敬子 (風間書房)	小立 鉦彦 (南江堂)	小宮 英行 (徳間書店)	牛来 真也 (コロナ社)	佐藤 諭史 (新興出版社啓林館)	澁谷健太郎 (東京創元社)	下出 雅徳 (彰国社)	杉田 啓三 (ニルヴァ書房)	瀧本多加志 (三省堂)	◎筑紫 和男 (建帛社)	千倉 成示 (千倉書房)	辻 浩明 (祥伝社)	土井 二郎 (築地書館)	◎時枝 正 (音楽之友社)	富澤 凡子 (柏書房)	中村 潤 (大日本図書)	能登 健 (みすず書房)	星野 広友 (銀行研修社)	◎益井 英郎 (文英堂)	三樹 敏 (明治書院)	森田 猛 (緑書房)	吉田 直樹 (光村図書出版)	吉野 和浩 (裳華房)
-----	--------------	--------------	--------------	----------------	--------------	-----------------	----------------	---------------	-----------------	--------------	---------------	-------------------	------------------	--------------	--------------	-------------	--------------	--------------	------------------	---------------	-------------	----------------	-------------	--------------	--------------	------------	--------------	---------------	-------------	--------------	--------------	---------------	--------------	-------------	------------	----------------	-------------

△事業運営委員会△	委員長 千倉 成示 (千倉書房)	副委員長 今村 正樹 (偕成社)	委員 金原 優 (医学書院)	飯塚 高彦 (産業図書)	大橋 一弘 (博文館新社)	坂本 政謙 (岩波書店)	千葉 均 (ポプラ社)	辻 浩明 (祥伝社)	三樹 敏 (明治書院)	矢部 敬一 (創元社)
△総務委員会△	委員長 鈴木 一行 (大修館書店)	副委員長 中下 美都 (平凡社)	委員 山本 憲央 (小学館)	市村 友一 (朝日新聞出版)	内田 真介 (ベレ出版)	江草 貞治 (有斐閣)	杉田 啓三 (ニルヴァ書房)	◎鉄尾 周一 (マガジンハウス)	土井 二郎 (築地書館)	成瀬 雅人 (原書房)
△出版平和堂委員会△	委員長 南條 光章 (共立出版)	副委員長 風間 敬子 (風間書房)	◎千倉 成示 (千倉書房)	◎吉野 和浩 (裳華房)	江草 貞治 (有斐閣)	大橋 一弘 (博文館新社)	功 (ひかりのくに)	◎岡本 優 (医学書院)	成瀬 雅人 (原書房)	横川 裕史 (日本出版クラブ)

特別委員 小林 則一 (教科書協会)
 村上 和夫 (自然科学書協会)
 ◎加藤真出美 (出版 梓会)
 野上 秀夫 (出版企業年金基金)
 渡邊 恭明 (出版健康保険組合)
 ◎服部 知司 (全国教科書供給協会)
 鈴木 宣幸 (日本雑誌協会)
 松尾 靖 (日本出版次協会)
 樋口 清一 (日本書籍出版協会)
 石井 和之 (日本書局出版)

【2023年度事業報告より】
 当法人における2023年度の事業は、5月に新型コロナウィルス感染症が5類へ移行したことにより、少しずつ日常を取り戻し、恒例事業である「全出版人大会」「出版平和堂 出版功労者顕彰会」「出版関係新年名刺交換会」はコロナ禍前の規模で開催することができた。

ライブラリーにおいては、喫茶スペースの設置や期間限定でのウィンドウイルミネーションの設営、企画展の開催を通じて、出版クラブの存在感を高めてきた。

また、有隣堂社長・松信健太郎氏の講演会開催と「出版クラブだより」「出版クラブ創立70周年記念号」の発行並びにホール・会議室のテールとイスの入れ替え等を実施することにより、出版クラブのPRやホール・会議室の利用促進をおこなってきた。

出版 歳時記

▽8月上旬、那覇に一週間滞在した。目的のひとつは本の読むこと。普段は仕事と出版業界やメディア関連、エンタテインメント関連のネットニュースのチェックに追われているため、東京から1,500km以上離れた南の島で活字にじっくり向き合おうとの心積もりだった。旅行用のショルダーバッグには厳選した4冊の書籍を入れたが、結局、読み終えたのは2冊のみ。うち1冊は若手文芸評論家・三宅香帆さんによる話題作「なぜ働いていると本が読めなくなるのか」(集英社新書)だった。同書のため私がもっとも共感したのは、次の記述である。

「自分から遠く離れた文脈に触れること―それが読書なのである。そして、本が読めない状況とは、新しい文脈をつくる余裕がない、ということだ。自分から離れたところにある文脈を、ノイズだと思ってしまう。(中略)それは、余裕のなさゆえである。だから私たちは、働いていると、本が読めない。」

読書とカラオケ

▽まさに今の私が欲しているのは、最新の情報であり、知らない情報だ。誰に頼まれているわけでもないのに、他者と情報を共有したいと判断した5本のニュースやコラムが溜まると、所属している6つのLINEグループに配信することがある種の生きがいになっているからだ。そして、その余裕のなさが本という存在を遠ざけているのかと、合点がいった。

スキヤンダル誌「噂の真相」編集長だった故・岡留安則氏の著書「沖繩から撃つ!」(集英社インターナショナル)だ。「噂の真相」休刊後、那覇へ移住した7年間(2004年~2011年)にWEBサイトに連載した文章をまとめたものである。すでに絶版となっていたことから、昨年、ブックオフの通販で入手していた。私は2011年から2012年にかけての約1年間、沖繩を5回ほど仕事で訪れたことがあったのだが、その度に当

時、岡留氏が経営していた居酒屋を訪ねた思い出がある。▽同書に描かれているのは、自民党から民主党への政権交代前夜の沖繩での期待と熱狂から、普天間基地移設断念に追い込まれ迷走する鳩山政権の醜態、そして菅直人総理誕生と東日本大震災の発生による混乱の日々である。とくに目新しい情報はないものの、当時の混乱した政界と絶望する沖繩の人々、そして一連の事態を招いた背景を見つかり岡留氏のまなざしをしっかりと見出し出すことができた。これも本が持つひとつの効用だろう。

▽那覇での夏休みは、日中こそ、滞在したコンドミニアムの一室に籠り、パリの五輪のテレビ中継を横目に読書の時間を設けることはできた。しかし、夜は某全国紙那覇支局の知人に連れられて訪れたスナックでカラオケにはまってしまい、泡盛やウイスキーのオン・ザ・ロックを片手に昭和・平成の名曲を熱唱することが日課となっていました。とはいえ、カラオケの楽しさとともに、本を読むことの本来の意味を思い出させてくれる旅となった。(乙羽小牧)

編集雑記

☆暑い夏でした。8月、クラブラブラブラリーでは夏休み企画として「国語辞典のひみつ」展を開催。親子連れや学校の先生などたくさんの方が酷暑の中に見に来てくれました。

9月は、「スキマ辞書の世界」と題して、ニッちな辞書の展示を行います。今後も一般の方々に本と触れ合う機会を提供できるよう工夫していきたいと思っています。☆パリオリンピックの17日間の熱

戦が終わりました。グラン・パレでフエンシングの試合をするなんて、フアンズにしか思いつかないでしょうし、実行するのはパリにしかありません。やり投げの北口さんなど海外に拠点を置く選手の活躍が目立ちました。日本にとどまらず、外に出て鍛えないと世界では戦えないということなのでしょう。☆アメリカでは大統領選挙が本格化しています。ハリスさんは「ガラスの天井」を打ち破れるのでは

ようか。党大会の映像を視聴するアメリカの政治家はスピーチが上手です。人々を説得し、まとめているためには「言葉の力」が大切なのだとあらためて感じました。☆一方で侵攻開始から2年半がたったウクライナとロシアの戦争も、イスラエルとパレスチナの戦いも終わりが見えます。「知に平和」と祈るばかりです。☆迷走台風とともに9月が始まりました。9月、10月も暑さが続きそうです。ご愛ください。(横)

出版クラブは皆さまの「クラブ」です。
お気軽にご利用頂ければと存じます。
出版イベントや各種会議・セミナー等
益々のご利用をお待ち申し上げます。

出版クラブホール・会議室 PUBLISHERS CLUB HALL

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-32

出版クラブビル

TEL 03-5577-1511/FAX 03-5577-1772

<https://shuppan-club-hall.jp/>

神保町駅(東京メトロ半蔵門線、都営新宿線・三田線)
A5 出口より徒歩2分

